ゴルフヘッドゲージ

～取扱説明書（業務向け）～

ゴルフヘッドゲージは、ウッド、アイアン、ウェッジ、パターのヘッドに対して、
次の項目を測定するための測定器です。

●ロフト角	●ライ角	●フェース角	●ソール角
●フェイスプログレッション		●ホーゼルオフセット	

ゴルフヘッドゲージを正しく使用する為には、ヘッド中心線、ヘッド固定方法を始め、様々な測定基準の定義の決定が必要となります。ヘッドのスペックを測定前する前に、後述の要領で測定基準の定義決定、及び確認を行ってください。

1－ 付属品

①測定器本体
②専用分度器
③フェイス角測定器
④取扱説明書

〈測定器本体〉

〈専用分度器〉

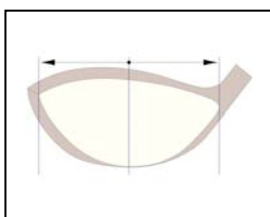
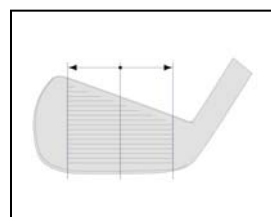
〈フェース角測定器〉

2－ ヘッド中心線の求め方

①フェイス中心基準
イラストAのように、スコアライン方向での最長フェイス距離に対し、半分の長さをヘッド中心点と定義し、ヘッドに対して垂直方向に延長させた線。（本基準は、主にウッドに採用することが多い。）

②スコアライン中心基準
イラストBのように、最長スコアラインの横半分の長さをヘッド中心点と定義し、ヘッドに対して垂直方向に延長させた線。（本基準は、主にアイアンに採用することが多い。）

③ブレード中心基準
トップブレードの半分の長さをヘッド中心点と定義し、ヘッドに対して垂直方向に延長させた線。
(本基準は、主にパターに採用することが多い。)

（イラスト A）

（イラスト B）

【注釈】ヘッドの垂直方向は、ヘッドの水平状態をどのように定義（任意）するかによって変化します。

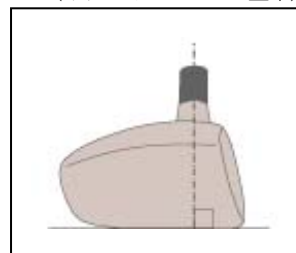
3ー クラブの固定方法

クラブを固定するために、２個あるシャフトクランプボルトを両方とも十分に緩めます。写真①のように、シャフト固定プレートを外し、クラブシャフトがＶ字ブロックの溝に沿うようにあてがいます。ヘッドの固定方法が任意の基準（下記参照）となるように、シャフトクランプボルトをしっかりと締め付けクラブを固定して下さい。
（２個あるボルトを各々少しづつ締め付けると良い。）

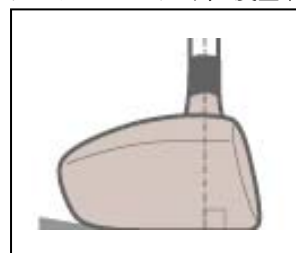
(写真①)

①ソール基準

イラストＤのように、ヘッドのソール角、及びフェイス角に関わらず、ソール部にある任意の基準によるヘッド中心線（２参照）を、測定器本体の台座（以降台座）に平面的に設置させた状態。
【注釈】複雑なソール形状の近年のウッドでは、ライ角を合わせた状態で、
自然にソールさせた時をソール基準とする場合もあります。

(イラストＤ ソール基準)

②フェイス角０度基準

イラストＥのように、ヘッドのフェイス角を０度にて固定した状態。

(イラストＥ フェイス角０度基準)

4ー ライ角の測定

フェイス角通り(ｽﾍﾟｯｸ)（３②参照）にてヘッドを固定します。次に測定器のライ角ノブ（商品番号G18はライアーム）を調整し、台座にライ角測定方法が任意の基準（下記参照）となるようにクラブを固定して下さい。（注意：各基準が正確となるように、各々の基準設定を再確認し、微調整を行ってください。）
写真②のように、測定器のライ角メモリを読み取ることでライ角が測定できます。

(写真②)

①ソール中心基準

任意の基準によるヘッド中心線（２参照）と、台座の中心が同位置となるように台座をスライドさせ調整します。（商品番号G18の測定器を使用の場合、この作業は省略となります。）同一の厚みであるテンプレート（名刺等の代用で可）を２枚用意し、写真③のようにソールのトウ側とヒール側の両方から各々１枚づつ差し込みます。ソールと台座が接触している箇所でテンプレートは止まりますが、２枚のテンプレートの端がフェイス中心から等距離となるようにライ角ノブ（商品番号G18はライアーム）を調整して下さい。ライ角を調整した際は、ヘッド中心線と台座の中心線が常に同位置となるように、台座の位置を再調整して下さい。
(本基準は、主にウッドに採用することが多い。)

(写真③)

②スコアライン平行基準

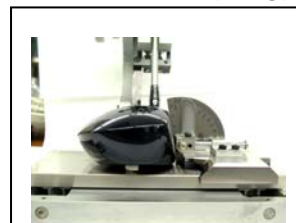
写真④のように、フェイス角測定器のメモリ側にある平行部分をフェイスにあてがい、スコアラインと平行となるようにライ角ノブ（商品番号G18はライアーム）を調整して下さい。
(本基準は、主にアイアンに採用することが多い。)

（写真④）

5ー ロフト角の測定

①オリジナルロフト

予め任意の基準で測定したライ角（４参照）となるようにライ角メモリを合わせます。台座にヘッドの固定方法がソール基準（３①参照）となるようにクラブを固定して下さい。専用分度器を台座のメモリにではなく、フェイスに対して垂直状態でフェイス中心に置きます。写真⑤のように、分度器のメモリ部分をスライドさせ、フェースロールのあるヘッド（主にウッド）の場合はロールの頂点、フェイスが平面的なヘッド（主にアイアンやパター等）の場合は、フェイスに完全に沿うようにあてがいます。分度器のメモリを読み取りオリジナルロフト角を測定します。

（写真⑤）

【注釈】オリジナルロフト角を測定の際、商品番号Ｇ２７の測定器に付属の分度器では、フェイスに対して垂直状態でフェイス中心に置くことが不可能な場合があります。その際は、通常のプロトラクターを利用して下さい。

②リアルロフト

予め任意の基準で測定したライ角（４参照）となるようにライ角メモリを合わせます。台座にヘッドの固定方法がフェイス角０度基準（３②参照）となるようにクラブを固定して下さい。専用分度器を台座のメモリに対して垂直状態でフェイス中心に置きます。写真⑥のように、分度器のメモリ部分をスライドさせ、フェースロールのあるヘッド（主にウッド）の場合はロールの頂点、フェイスが平面的なヘッド（主にアイアンやパター等）の場合は、フェイスに完全に沿うようにあてがいます。分度器のメモリを読み取りアルロフト角を測定します。

（写真⑥）

6ー ウッドのフェース角の測定

予め任意の基準で測定したライ角（４参照）となるようにライ角メモリを合わせます。台座にヘッドの固定方法がソール基準（３①参照）となるようにクラブを固定します。写真⑦のように、フェイス角測定器を台座に取り付け、フェイス角インディケーターの矢の両端が、フェイス中心から等距離になる位置に合わせます。フェース角インディケーターをフェイスに軽く接触させます。フェイス角測定器のメモリを読み取ることでフェイス角を測定できます。

（写真⑦）

7－ ソール角の測定

始めにリアルロフト角（５②参照）を測定します。次に、バウンスソール、スクープソールのどちらの場合でもヘッドをソール基準（３①参照）にて固定し、ソールがフラットな状態でのオリジナルロフト角（５①参照）を測定します。次に予め測定してあるリアルロフト角の数値からオリジナルロフト角の数値を差し引きします。算出された数値がソール角となります。（下記、例参照）

【注釈】ソール基準固定時に、フェイスがフック方向に向く場合（算出数値がプラス）はバウンスソール、スライス方向に向いた場合（算出数値がマイナス）は、スクープソールとなります。

（例）

①	リアルロフト	（フェイス角０度基準でのロフト角）	５６°
	オリジナルロフト	（クローズ方向に回した時のロフト角）	４４°
	ソール角	（バウンス）	＋１２°
②	リアルロフト	（フェイス角０度基準でのロフト角）	２８°
	オリジナルロフト	（オープン方向に回した時のロフト角）	３０°
	ソール角	（スクープ）	－２°

8－ フェイスプログレッションの測定

予め任意の基準で測定したライ角（４参照）となるようにライ角メモリを合わせます。台座にヘッドの固定方法がフェイス角０度基準（３②参照）となるようにクラブを固定します。写真⑧のように、定規などを利用し、台座のメモリにあるシャフト軸線から、ヘッドのリーディングエッヂの頂点までの長さを測定（台座のメモリに対し垂直方向）します。この値がフェイスプログレッションであり、起点であるシャフト軸線を０ミリ、それよりリーディングエッヂが飛球線方向に前進している場合をプラス、後退している場合をマイナスで表示します。

(写真⑧)

9－ オフセットの測定

予め任意の基準で測定したライ角（４参照）となるようにライ角メモリを合わせます。台座にヘッドの固定方法がフェイス角０度基準（３②参照）となるようにクラブを固定します。写真⑨のように、直角部分のある定規や分度器などを利用して、直線部分が台座に対して垂直となるように、ヘッドホーゼル部の飛球線側の垂直線に合わせます。その延長線をオフセット測定の起点と定め、その起点からヘッドのリーディングエッヂの頂点までの長さを測定（台座のメモリに対し垂直方向）します。この値がオフセットとなります。

(写真⑨)